

# 基礎研 レポート

## IAIS が拡大フィールドテストのための ICS(保険資本基準)Version1.0を公表 －保険負債評価の割引率について－

取締役 保険研究部 研究理事

年金総合リサーチセンター長

TEL: (03)3512-1777

中村 亮一

E-mail: [nryoichi@nli-research.co.jp](mailto:nryoichi@nli-research.co.jp)

### 1－はじめに

IAIS（保険監督者国際機構）が、保険会社に対する国際的な資本規制である ICS(Insurance Capital Standard : 保険資本基準)に関して、2017年7月21日に、「拡大フィールドテストのためのリスクベースのグローバルな保険資本基準 Version1.0 (Risk-based Global Insurance Capital Standard Version 1.0 for Extended Field Testing)」(以下、「ICS Version1.0」という)を公表<sup>1</sup>した。

今回の ICS Versin1.0 は、2016年7月19日に市中協議に諮られた 2016 ICS CD (2016 Insurance Capital Standard Public Consultation Document) に対するフィードバック等を受けてのものであるが、その位置付けはまさに 2017年のフィールドテスト<sup>2</sup>に参加するボランティアグループのための ICS 基準である。正式な協議文書という形にはなっていないが、今回の公表を受けて、利害関係者からのフィードバックを受け付ける形になっている。

今回の ICS Version1.0 については、2016 ICS CD から各種の変更等が行われている。ただし、今回のレポートでは、全体の特徴において、その概要に触れた後、具体的内容については、保険負債評価に使用する割引率に焦点を絞って報告する。

なお、保険負債評価に関する項目の中でも、2016 ICS CD から大きな変更が行われていない点等については、今回は詳しくは触れていない。こうした点を含む 2016 ICS CD の概要については、基礎研レポート「[IAIS（保険監督者国際機構）による ICS（保険資本基準）について－公表された市中協議文書の概要と関係団体からの初期反応等－](#)」（2016.8.9）(以下、「前回のレポート」という。)を参照していただきたい。

<sup>1</sup> ICS Version1.0に関連する資料については、IAISのWebサイトから入手可能

<https://www.iaisweb.org/page/supervisory-material/insurance-capital-standard/file/67651/ics-version-10-for-extended-field-testing>

<sup>2</sup> 2017年のフィールドテストは、2015年、2016年に続く第3回目の定量的フィールドテストであり、2017年9月が提出締切りとなっている。

## 2—ICS(保険資本基準)について

### 1 | ICS とは

ICS は、IAIGs (Internationally Active Insurance Groups : 国際的に活動する保険グループ) に適用されるグループベースの連結保険資本基準である<sup>3</sup>。ICS は、IAIGs を監督するための国際的な監督フレームワークで定性的かつ定量的な要件を取り扱う ComFrame (Common Framework for the Supervision of Internationally Active Insurance Groups) の一部である。IAIGs の認定基準<sup>4</sup>については、ComFrame に規定され、グローバルに保険活動を展開している数十社程度が該当し、これらの会社で世界の保険料シェアの 5 割以上を占めると予想されている<sup>5</sup>。

### 2 | ICS の位置付け

ICS は、達成されるべき最低基準を制定しており、IAIS の各国監督当局はそれぞれの管轄地域で ICS を適用することが期待されることになる。各国監督当局はより高い基準やより高い最低資本水準を設定する追加的制度を採択してもよい。さらには、自国の IAIGs に対して補足的な資本十分性手段を導入してもよい。

(参考) IAIS による保険監督規制の枠組み

	保険会社	保険グループ	国際的に活動する 保険グループ (IAIGs)	グローバルにシステム 上重要な保険会社 (G-SIIs)
保険基本原則 (ICP)	個別法人 のみに適用	個別法人及びグループに適用		
コムフレーム (ComFrame)			コムフレームの資本規制 ICS(2019年確定、 2020年以降適用開始予定)	
G-SIIs政策措置 (BCR・HLA等)			BCR(基礎的資本要件)(2014年確定) HLA(より高い損失吸収力)(2015年確定) HLAIは2022年適用開始予定	

### 3 | ICS 作成に向けてのプロセス

#### (1) 今回の ICS Version 1.0 の位置付け

IAIS は、2015 年と 2016 年に、ICS の開発に関する量的フィールドテストを実施したが、今回の ICS Version 1.0 は 2017 年 9 月に提出される予定の第 3 回定量的 ICS フィールドテストに対応するものである。1 年前の 2016 年 7 月 19 日に 2016 ICS CD が公表された時には、2017 年 6 月までに機密ベースで会社が監督当局に報告する「ICS Version 1.0」の採択が計画されていたが、そこまでには

<sup>3</sup> IAIS の作成するルールに法的裏付けはないが、メンバーのコンセンサスで決定されたルールについては、遵守していくことが求められていくことになる。

<sup>4</sup> 規模の基準 (①少なくとも 500 億米ドルの保険資産又は 100 億米ドルの保険料) 及び国際活動基準 (②3 つ以上の管轄区域での活動、③少なくとも 10%以上の保険料を本籍管轄区域外から引き受け) がベースであるが、監督当局による裁量も認められている。

<sup>5</sup> 2017 年のフィールドテストには、50 社以上 (2016 年のフィールドテストでは 41 社) が参加しているとのことである。

至らずに、今回もボランティアグループが 10 社ほど拡大したとはいえ、あくまでもフィールドテストという位置付けになっている。

## (2) 次のステップとしての ICS の Version 2.0 の目標

今回公表された ICS Version 1.0 の位置付けは、当初の計画から若干後退した形になってはいるが、IAIS は、ICS Version 2.0 の 2019 年の設定、2020 年からの実施という目標を変更していない。

ICS の Version 2.0 の目標は、監督者の実施に適した ICS の提供であり、その内容については、以下の通り記述されている。

- ・ ICS Version1.0 と比較して改善されたレベルの比較可能性を達成するが、おそらく最終的な目標によって想定される比較可能性のレベルではない。
- ・ まだ 2 つの評価アプローチを含むかもしれないが、評価の差異を縮小することを志向する。
- ・ ICS 資本要件を計算するための標準方式と、以下を含む他の計算方式を許容しているかもしれない。：(1)内部モデルの使用（部分又は完全）、(2)外部モデル、(3)標準方式のバリエーション

ICS Version2.0 が採用された後に、実施期間があるが、IAIS の定款によれば、メンバーは、特定の市場情勢を考慮して、IAIS の監督用資料を作成し、定期的な自己評価とピアレビューを実施することをコミットすることになる。

## (3)最終目標

IAIS の最終目標は、日付は未定だが、管轄区域間で比較可能な、即ち実質的に同じ結果を達成する共通の方法論を含む単一の ICS を設定することである。

進行中の作業を通じて、評価、資本リソース、資本要件等の ICS の重要な要素において、時間の経過とともにコンバージェンスが改善されていくことを意図している。

## 3—今回の ICS Version 1.0 の概要

この章では、今回の ICS Version 1.0 の概要について、IAIS からのプレス・リリース資料と報告書の導入部分の説明に基づいて、報告する。

### 1 | プレス・リリース資料による説明

今回の ICS Version 1.0 について、IAIS によるプレス・リリースによれば、「業界の参加は拡大し続けており、世界で最大規模の保険グループのうち約 50 社が現時点で拡大フィールドテストのプロセスに携わっている。」としている。また、「拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 文書は、ICS 要素の設計と校正の根拠と、該当する場合は考慮する様々なオプションを説明するマイルストーンである。ICS の設計と校正の説明の一部として 2016 ICS 協議への回答を参照し、将来のフィールドテストの演習や相談など、ICS Version2.0 に向けた今後の手順を定めている。」としている。

2017 年 7 月 21 日

IAIS、拡大されたフィールドテスト用の ICS Version1.0 をリリース

## IAIS の注意は ICS Version2.0 に向かう

バーゼル・保険監督者国際機構 (IAIS) は本日、拡大フィールドテストのための保険資本基準 (ICS) Version1.0 のリリースを発表した。これは、2019 年後半までに ICS Version2.0 を開発するための重要なステップである。

IAIS 執行委員会の議長である Victoria Saporta 氏は、「拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 のリリースは、IAIS の基準設定機関としての重要なマイルストーンである。」と語った。

拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 は、複数のパブリックコンサルテーション、ボランティアフィールドテスト演習、ステークホルダーセッションを通じて IAIS が受け取った広範なフィードバックによって形成されている。業界の参加は拡大し続けており、世界で最大規模の保険グループのうち約 50 社が現時点で拡大フィールドテストのプロセスに携わっている。「公的関与は ICS 開発にとって重要である。このプロジェクトは、受領したパブリックコメントから大きく恩恵を受け続けている。」と、IAIS 金融安定性・技術委員会の Elise Liebers 議長は述べている。

拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 文書は、ICS 要素の設計と較正の根拠と、該当する場合に考慮される様々なオプションを説明するマイルストーンである。ICS の設計と較正の説明の一部として 2016 ICS 協議への回答を参照し、将来のフィールドテストの演習や相談など、ICS Version2.0 に向けた今後の手順を定めている。

ICS は、国際的に活動する保険グループ (IAIG) の監督のための共通フレームワークである ComFrame のコンポーネントの 1 つである。ComFrame は、IAIG の複雑さと国際的な範囲に合わせた量的及び質的監督上の要件から構成されている。

拡大フィールドテストの ICS Version1.0 は正式な相談書ではないが、[iais@bis.org](mailto:iais@bis.org) にコメントを送付することにより、一般の方もフィードバックを提供できる。受け取ったフィードバックは、ICS Version2.0 の開発で考慮される。

「拡大フィールドテストのためのリスクベースのグローバルな保険資本基準 Version1.0」の出版物をご覧になるには、こちらをクリックのこと。

## 2 | 拡大フィールドテストの意味合い

今回の拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 に関する公表文書の目的については、様々な要素の背景と根拠について説明することであるとして、拡大フィールドテストの意味合いについては、以下の通りとしている。

- ・フィールドテストの演習は、全ての潜在的な IAIG や他の関心のあるグループ (ボランティアグループ) にも及ぶ。2017 年のフィールドテストには、いくつかの新しいボランティアグループが参加している。
- ・演習には、IAIS が ICS Version2.0 で解決しようとしている技術的問題及び契約上の問題に関する拡大されたデータ要求が含まれている。提供されるオプションを含む拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 の設計と較正は、必ずしも ICS Version2.0 に対して行われる意思決定を示すも

のではない。拡大フィールドテストのために ICS Version1.0 で検討されているオプションは、必ずしも ICS Version2.0 で検討される唯一のオプションではない。むしろ、2017 年のフィールドテストは、IAIS がフィールドテストで指定されたオプションだけから選択するという制限を設けることなく、将来の方向を啓発するために十分なデータを収集するように設計されている。

### 3 | 拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 の特徴

拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 においては、2016 年のフィールドテスト、2016 ICS CD への回答、ボランティアグループからの貴重なインプットと貢献から学んだ教訓を反映して、評価及び資本要件のためのフィールドテストの選択肢を狭めている。

#### (1) 評価

収集されたデータと 2016 年のフィールドテスト実施後に行われた分析により、異なるアプローチによる割引の影響に関する知識を向上させることができたため、今回の ICS Version1.0 においては、市場調整価値アプローチ (MAV) の下での 3 つ、GAAP 調整アプローチ (GAAP Plus) の下での 2 つ、の合計 5 つのオプション数に絞り込んでいる。

さらに、2017 年のフィールドテストの演習では、MAV と GAAP Plus の両方の評価アプローチで、高品質資産 (HQA) アプローチをテストする。これにより、2 つの評価アプローチ間の詳細な比較可能性分析ができるようになる、としている。

#### (2) 資本要件

IAIS は、2016 年のフィールドテストでテストされた 2 つの選択肢ではなく、罹患/障害リスクの単一のアプローチに絞り込んでいる。金利リスクについては、GAAP Plus の選択肢が明確になっているため、GAAP Plus の設計と合致した金利リスクへのアプローチを適用する、としている。

#### (3) 資本リソース

2017 年のフィールドテストでは、フィールドテストと 2016 年の ICS CD からのフィードバックに基づく未解決の問題のさらなる調査が行われる。これにより、様々な設計オプションの結果をより詳細に評価できるようになる、としている。

### 4 | 今回の報告書で取り扱われる問題

技術仕様書、テンプレート、アンケート及びフィールドカーブスプレッドシートを含むフィールドテストパッケージと比較して、この拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 は、対象読者として全てのステークホルダーを有している。この目的のために、技術仕様 (Technical Specifications) よりもあまり専門的でない方法で問題を記述している。また、ICS 構成要素の設計と較正の根拠と、必要に応じて考慮される様々なオプションについて説明している。さらには、2016 年のフィールドテストのハイレベルな結果も含まれている。

この文書は、拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 の開発に焦点を当てて、ICS 設定において重要な以下の項目をカバーしている。

- ・ MAV と GAAP Plus の 2 つの評価アプローチをカバーする ICS 評価



- ・ICS 資本リソース
- ・標準方式に基づく ICS 資本要件
- ・適用範囲：ICS の計算の周辺

## 5 | 今回の報告書で取り扱われない問題（ICS の ComFrame への融合）

この文書は、ICS Version2.0 の開発において取り扱われる事項については言及していない。

IAIS は、利害関係者が、ICS の実施及び長期的な開発に関連して、特に、①ICS Version2.0 実施の将来のプロセス、②ボランティアグループや監督当局への潜在的に増加するコスト及びベネフィット、について多くの疑問を抱いていることを認識している、としている。

ComFrame は IAIGs の監督の枠組みとして設計されているが、IAIGs の複雑さと国際的な範囲に合わせた量的及び質的監督上の要件から構成されている。ICS は、この包括的なフレームワークの要素の1つであることから、IAIS はこのフレームワークに ICS を融合する方法を検討する必要がある。

特に、IAIS は、IAIGs に対する目標資本要件（Prescribed Capital Requirement : PCR）として開発されている ICS が、ComFrame の他の部分、特にリスクとソルベンシーの自己評価（ORSA）を含む統合的リスク管理（ERM）に関係している部分、監督プロセスと報告、でどのように取り扱われるべきか、を検討していくことになる、としている。

なお、ICS Version2.0 の策定に向けての課題としては、ComFrame の融合に加えて、①評価手法のコンバージェンス、②保険負債の割引率のコンバージェンス、③内部モデルの検討、④適格資本の定義の明確化、等が挙げられている。

（参考）2016 ICS CD のカバーする範囲等

2016 ICS CD は、先に述べた、①評価方法（valuation）、②適格資本リソース（qualifying capital resources）、③ICS 資本要件を決定するための標準手法（standard method for determining the ICS capital requirement）に加えて、④グループの範囲（ICS 算出の境界線）、⑤税に対する全体論的アプローチ（holistic approach）に対する予備的考察、をカバーしていた。

ただし、以下のような長期的な戦略問題は含まれていなかった。

- (a) 内部モデル（ICS Version 1.0 から ICS Version 2.0 への発展の中で検討される）
- (b) 実践における ICS の比較可能性の評価手法
- (c) ICS が IMF の FSAP の一部となる可能性
- (d) ICS Version 2.0 が消費者や投資家の教育を含むパブリックに対して伝達される方法
- (e) 既存の監督制度から ICS の実施への移行措置
- (f) グループベースの連結資本要件として、ローカルな法的単体資本要件と ICS の間の相互作用
- (g) 資本の代替可能性

## 6 | 次のステップ

今後のスケジュールは、次ページの図表の通りとなっており、今後もかなりタイトなスケジュールで検討が進められていくことになっている。

## ICSとフィールドテストのタイムテーブル

日付	マイルストーン
2017年9月	2017年フィールドテストのデータ締切り ICS Version 2.0の議論スタート
2018年第2四半期	2018年フィールドテストの開始
2018年半ば	ICS Version 2.0を含む総合的なComFrame協議の発行
2018年第3四半期	2018年フィールドテストのデータ締切り
2018年遅く	ICS Version 2.0とComFrame協議のコメント締切り
2019年第1四半期遅く ／第2四半期早く	2019年フィールドテストの開始
2019年第3四半期早く	2019年フィールドテストのデータ締切り
2019年IAIS総会	ICS Version 2.0を含むComFrameの採択

## 4—今回の ICS Version 1.0 の具体的内容—保険負債評価の割引率—

この章では、今回の ICS Version 1.0 のうち、保険負債評価に使用する割引率の設定に焦点を絞って、2016 ICS CD との変更点等について報告する<sup>6</sup>。

### 1 | 評価方法 (valuation)

保険負債の評価については、引き続き、(1)市場調整価値 (Market Adjusted Valuation : MAV)、(2)GAAP 調整 (GAAP<sup>7</sup> with Adjustments(GAAP Plus))、の2つの評価アプローチでのテストが求められている。

両方式の類似性と差異については、前回のレポートで述べた通りである。

**3—3** | (1)で述べたように、今回のフィールドテストでは、市場調整価値アプローチ (MAV) の下での3つ、GAAP 調整アプローチ (GAAP Plus) の下での2つ、の合計5つのオプション数に絞り込んでいる。また、2017年のフィールドテストの演習では、MAV と GAAP Plus の両方の評価アプローチで、以下に述べる高品質資産 (HQA) アプローチをテストする。これにより、2つの評価アプローチ間の詳細な比較可能性分析ができるようになり、ICS 目的の評価において、より大きなコンバージェンスを生み出すのに役立つと期待されている。

### 2 | 市場調整価値ベース (MAV)

保険負債に対して、現在推計を使用するが、現在推計は、偏りのない最新の前提条件を用いて、保険債務を履行する際に生じる全ての関連する将来キャッシュフローの期待現在価値を反映する。

ここで、保険負債の割引率については、IAIS が指定する通貨別のイールドカーブを使用する。

基本イールドカーブについては、EU のソルベンシー II における UFR (Ultimate Forward Rate : 終局フォワードレート) に相当する LTFR (Long Term Forward Rate : 長期フォワードレート) を使用すること等 2016 ICS CD と基本的に同じである。

<sup>6</sup> この章の説明は、あくまでも「拡大フィールドテストのための ICS Version 1.0」に基づいているが、さらに詳しい内容については、2017 Quantitative Field Testing Package 中の「Technical Specifications (技術仕様)」等を参照していただきたい。

<sup>7</sup> GAAP(Generally Accepted Accounting Principles : 一般に (公正妥当と) 認められた会計原則)

ここでは、拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 に含まれる基本イールドカーブの調整のオプションについて報告する。それは、以下の3つである。

①ブレンドオプション (Blended Option)

②高品質資産 (HQA) オプション (High Quality Assets Option)

③ガードレール付きの自己資産 (OAG) オプション (Own Assets with Guardrails Option)

①ブレンドオプション (ブレンド)

ブレンドオプションは、2016年フィールドテストの2つのオプションを組み合わせで使用する。

- ・80%の適用比率<sup>8</sup>でスプレッドレベルはBBBを上限とする、代表ポートフォリオアプローチに基づく一般バケット。そして
- ・複数の代表ポートフォリオの加重平均 (WAMP) 手法に基づいたトップバケットで、厳密な基準を条件として、BBBレベルを上限としつつ、より高い適用比率 (100%) が可能。トップバケットの使用はオプションである<sup>9</sup>。

ブレンドオプションには、トップバケット下での代表ポートフォリオアプローチの使用によって発生する可能性のあるベースリスクを軽減するための2つのベースリスク軽減メカニズム<sup>10</sup>も含まれている。この仕組みは、①単一の共有通貨の複数の管轄区域へのエクスポージャーと、②裏付している負債の通貨に該当しない通貨建資産へのエクスポージャー、に対処している。

代表ポートフォリオ (2016 オプション 1) と WAMP<sup>11</sup> (2016 オプション 2) の方法論の技術的な詳細は、2016年のフィールドテストと比較して大きくは変わっていない。スプレッド調整はリスク修正され、固定利付資産のみが調整の決定に適格とみなされる。

②高品質資産オプション (HQA)

このオプションは、通貨固有の代表ポートフォリオの使用をテストするために設計されている。ポートフォリオ構成については、通貨毎に代表ポートフォリオを使用する。このオプションでは、スプレッド調整の適用比率は100%であり、スプレッドレベルはAAで上限が設定され、調整はリスク修正の対象となる。負債はバケット化されず(全ての負債を割り引くために同じ適用比率が使用される)、殆どの資産 (現金を除く) が調整の計算に貢献する。

HQA オプションの下では、調整は(ブレンドオプションの下でのように) 基本イールドカーブへの平行移動としては行われぬ。その代わりに、期間に依存する調整曲線が、基本イールドカーブのセグメント 1<sup>12</sup>に沿った各期間に関連するデータに基づいて、各通貨に対して設定される。

この提案は、長期契約の割引は、保険会社の予想される投資実績とは無関係に、高品質の債券の利

<sup>8</sup> 適用比率は、関連する方法論に従って計算され、基本イールドカーブに追加されるリスク修正後のスプレッドの割合

<sup>9</sup> ボランティアグループは、この追加の計算によって負債の評価が大幅に変更されるかどうかを評価し、全ての負債に一般バケットアプローチを適用するか、トップバケットアプローチを適用するかを決定することができる。

<sup>10</sup> 具体的な内容については、「Technical Specifications」を参照していただきたい。

<sup>11</sup> weighted average of multiple representative portfolios (複数代表ポートフォリオの加重平均)

<sup>12</sup> 基本イールドカーブは、3つのセグメント (セグメント 1 : 市場情報に基づく流動的なセグメント、セグメント 2 : セグメント 1 とセグメント 3 の間の補間/平滑化部分、セグメント 3 : LTFR(長期フォワードレート)で構成されている。



回りに基づくべきという、会計基準における議論からインスピレーションを得たものとしている。

ブレンドオプションで検討されている理由と同様の理由により、HQA オプションにも同様の仕様を使用する2つのベースリスク軽減メカニズムが含まれている。

### ③ガードレール付きの自己資産オプション (OAG)

IAIG は、ガードレール付きの自己資産オプション (OAG) の下で、各負債ポートフォリオに割り当てられた IAIG が保有する特定の資産を使用して決定されるスプレッド (全期間調整スプレッド) によって、各負債ポートフォリオレベルで調整された、関連するリスクフリーの IAIS 指定イールドカーブを使用して、保険負債のサブセット又は全てを割引くオプションを有する。

このオプションの主な目的は、IAIG の内部で承認された資産負債管理 (ALM) プロセスを反映させ、資産の行動と対応する負債との完全な整合を促進することにある。

OAG は 100% の適用比率を使用し、現金以外の全ての資産が調整の決定に寄与すると考えている。

OAG においては、IAIG の自己資産について計算されたスプレッドが、リスクフリーのイールドカーブのセグメント 1 を超えても、資産の存続期間を通じて獲得されると仮定される。

OAG オプションを適用しないポートフォリオについては、HQA オプションを適用する。

各 IAIG の独自の資産に基づいた方法論の潜在的に不公平なインセンティブを緩和するために、この方法論には一連の量的及び質的ガードレールが含まれる。

以下の表が、拡大フィールドテストのための ICS Version 1.0 における MAV アプローチの下でのリスクフリーイールドカーブの調整のために検討されている3つのオプションの重要な特徴をまとめたものである。

なお、ブレンドオプションが MAV のベンチマークとして定義されている。

拡大フィールドテストのための ICS Version 1.0 でテストされるオプション

	ブレンド	高品質 (HQA)	OAG
負債のセグメンテーション (バケット)	2	1	1
ポートフォリオの構成	通貨毎の代表ポートフォリオ	通貨毎の代表ポートフォリオ	ボランティア会社の自己資産
デフォルト控除	リスク調整	リスク調整	リスク調整
資産の範囲	適格資産のみ	全ての資産 (現金以外)	全ての資産 (現金以外)
定量的ガードレール	BBB	AA	BBB
適用比率	一般 80%、トップ 100%	100%	100%

結局、3つのオプションを比較すると、以下の通りとなっている。

- (a) ブレンドと HQA が代表ポートフォリオに基づいているのに対して、OAG は個別会社のポートフォリオに基づいている。
- (b) ブレンドは適格資産のみが対象であるのに対して、HQA と OAG は株式や不動産を含む全ての資産 (現金以外) が対象になっている。
- (c) 定量的ガードレールについては、ブレンドと OAG が BBB であるのに対して、HQA は AA となっている。

### 3 | GAAP 調整アプローチ (GAAP Plus )

#### (1)全体の概要

拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 における GAAP Plus の評価手法は、フィールドテストの結果から得られたマイナーな技術的な更新と、フィールドテスト中に収集されたボランティアグループ及びステークホルダーからの入力と 2016 ICS CD への反応を加えた 2016 年のフィールドテスト技術仕様と整合的である。GAAP Plus の論理的根拠を裏付ける主な原則は、監査の対象となる金額、プロセス及び又はシステムに可能な限り基づいて行われるべきである、ということにある。

IFRS に基づく会計規則の変更及び予想される米国 GAAP に基づく変更が、投資資産及び保険契約の評価に重大な影響を及ぼすため、2018 年以降のフィールドテストの演習においては、IFRS 又は米国 GAAP に基づく GAAP Plus の現在の設計を再評価する必要がある。

#### (2) GAAP Plus のオプション

IASB (国際会計基準審議会) と米国の FASB (財務会計基準審議会) は、拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 の検討に間に合うように、期限内に保険契約に関する最終規則を発行しなかったため、拡大フィールドテストの ICS Version1.0 では、GAAP Plus は拡大された 2016 年のフィールドテストの技術仕様に従うこととしている。

従って、割引については、

##### ①現存している管轄区域の GAAP 規則及び以前に指定された調整に引き続き従う

ことになり、これが GAAP Plus オプションのベンチマークとみなされる。また、

##### ②HQA オプション

が、割引に関して予想される新しい IFRS 及び米国 GAAP 規則の範囲内に入ることを意図してテストされ、これは GAAP Plus と MAV の間の保険負債評価における非割引関連の差異を際立たせるのに役立つことが期待されている。

#### (3) 変更点等

##### (3-1) 新しいデータの要求等

GAAP Plus の 2017 年のフィールドテストには、いくつかの重要な変更と新しいデータ要求がある。

- ・貸借対照表データは、MAV 仕様と一致したストレス下の信用スプレッド条件に基づいて収集される。
- ・GAAP Plus と MAV の間の新しい調整は、GAAP Plus と MAV の保険負債評価の差異の要因を調べるために開発された。

##### (3-2) 複数の GAAP Plus の報告

2016 年のフィールドテストでは、保険契約に関する現行の IFRS 規則のために、会社のグループレベルの報告について、法人レベルで異なる管轄会計で評価された保険負債の集計の結果として、保険負債を混在させることが可能となっていた。さらに、グループの下で適用される複数の管轄会計規則を有して、集計された法定残高を報告する会社があった。GAAP Plus は基礎となる管轄会計に基づいているため、いくつかのボランティアグループは、複数の管轄区域の GAAP Plus の例を報告する必

要があることになる。

2017年のフィールドテストでは、ボランティアグループが複数の GAAP Plus の例でレポートを作成できるようにしている。これは最善の解決策ではないと考えられていたが、短期間及び拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 では実用的であると考えられた。なお、IFRS 第 17 号が採用された時点でこの問題に対処することに貢献する可能性がある、としている。

### (3-3) リスク費用の変更

過去のフィールドテストで指摘されている GAAP Plus の一定の不適合に対処するために、拡大フィールドテストのための ICS Version1.0 のリスク費用にいくつかの変更が導入された。

#### ① 金利リスク

- 2015年のフィールドテストで、GAAP Plus の米国 GAAP の例を適用したボランティアグループは市場ベースの割引曲線でワークするように設計された金利リスクのリスク費用を導出する方法は、ブックイールドが割引率として適用される GAAP Plus の下での管轄地域の評価アプローチと整合的でない、ことを指摘した。
- 2016年のフィールドテストでは、GAAP Plus の管轄区域の例とより適合するように、金利リスクを計算するための別の方法が開発され、これは、2016年のフィールドテストのオプションとして提示された。
- 2017年のフィールドテストでは、この手法はもはやオプションではなく、GAAP Plus の下で適用される唯一の方法となり、保険負債はブックイールドと再投資の仮定を用いて測定される。市場ベースのカーブを用いて割り引かれる保険負債は、引き続き MAV の金利リスクを決定するための所定の方法に従うことになる。

#### ② 信用リスク

- 2016年のフィールドテストでは、いくつかのボランティアグループが、本質的に長期負債に対応する固定利付資産を公正価値から償却原価に調整して資本リソースに AOCI<sup>13</sup>調整を含めることは、関連するリスク費用計算から同じ調整を除外していることと矛盾している、と指摘した。
- 2017年のフィールドテストでは、信用リスク費用を計算するための GAAP Plus の手法は、一定の固定金利投資が AOCI 調整による原価で測定される場合、償却原価ベースのエクスポージャー金額を参照している。

### (4) IFRS 及び米国 GAAP の改定に伴う将来の再設計

IFRS 及び米国 GAAP に基づく保険契約及び金融商品の会計規則の変更により、GAAP Plus の特定の管轄地域の例では、ICS Version2.0 の再設計が必要となる場合がある。IAIS は、ボランティアグループと関心あるステークホルダーがこの再設計作業の一環として意見を共有し、提案を行う手段を検討する、としている。

<sup>13</sup> AOCI(Accumulated Other Comprehensive Income : 累積その他包括利益)

## 5—今回の ICS Version 1.0 の公表に対する反応

今回の公表は、あくまでも 2017 年のフィールドテストの仕様に関するものであり、この作成に至るまでの関係者の意見も踏まえた上での複数のオプション等も含まれていることから、この段階での対外的に公表された直接的な反応は限られている。

### 1 | ABI(Association of British Insurers : 英国保険会社協会)

ABI は、今回の ICS Version 1.0 の公表に対応して、7 月 21 日にコメントを発表している。

その中で、規制担当ディレクターの Hugh Savill 氏は、ICS は、内部モデルを斟酌しておらず、年金事業を適切に扱わず、分散効果の認識が不十分であるため、英国市場での使用には適していないと懸念したままである、と述べた。

#### グローバルな保険資本基準 Version 1.0 のリリースに関する ABI のコメント

2017 年 7 月 21 日

ABI の規制担当ディレクターの Hugh Savill 氏は、保険監督者国際機構 IAIS) によるグローバルな保険資本基準 Version 1.0 のリリースについてコメントして、以下のように述べた：

IAIS は本日、国際的に活動する保険グループのための保険資本基準 (ICS) の Version 1.0 を発表した。しかし、我々は、ICS は英国市場での使用に適していないと懸念したままである。

会社がソルベンシー II の開発に多大な時間と費用を費やしているにもかかわらず、内部モデルが考慮に入れられていない。英国の年金のような保証付き長期契約の適切な取扱いが認められていない。分散化が保険の仕組みの中心にあるにもかかわらず、その認識が不十分である。

「ABI はこれらの問題に取り組むために IAIS と引き続き協力していくことを楽しみにしているが、私はこれらが開発と実施のための野心的なスケジュール表で解決できるかどうかは疑問に思っている。私は IAIS にもっと実用的なスケジュール表を検討するよう促したい。」と述べた。

### 2 | CRO Forum

欧州保険会社の CRO (Chief Risk Officer) の団体である CRO Forum は、この文書ではカバーされていない内部モデルの使用に関して、「ICS 2.0 における内部モデル使用」とのタイトルのペーパーを 7 月に公表<sup>14</sup>して、内部モデルを ICS で使用できるようにすべきとの主張を行った。

このペーパーの中で、「保険契約者にとって最適な社会的及び規制上の成果を達成する最善の方法は、保険会社が、標準的アプローチが会社のビジネスやリスクプロファイルに不適切だと考える場合には、監督当局の承認を受けて、完全又は部分内部モデルを使用することを認める規制制度を通じてである。」と主張している。

<sup>14</sup> <https://www.thecroforum.org/2017/07/21/use-of-internal-models-in-ics-2-0/>

なお、ペーパーの全文はこちら

[https://www.thecroforum.org/wp-content/uploads/2017/07/CROF\\_ComFrame\\_Paper-v20170718publication.pdf](https://www.thecroforum.org/wp-content/uploads/2017/07/CROF_ComFrame_Paper-v20170718publication.pdf)

## ICS 2.0 での内部モデルの使用

保険業界の健全な資本及び監督の枠組みが、財務の安定性と保険契約者を保護するために不可欠であるという事実を認識し、IAIS はリスクに基づくグローバルな保険資本基準（ICS）を策定することを約束した。CRO フォーラムは、リスクベースの世界的な保険基準の開発を歓迎し、これは、最終的には、人工的な不一致を除去し、効率的かつ効果的な監督を容易にし、公平な競争条件を確保することになるだろう。

本書では、保険業界の内部モデルの使用に関する過去の経験と実績を提示することにより、将来の世界的な保険資本基準の開発を促進することを目指している。CRO フォーラムは、標準アプローチに加えて、内部モデルの使用を ICS Version2.0 の重要な要素と不可欠な要素として認めなければならない理由を示したい、と考えている。このホワイトペーパーでは、内部モデルの使用を許可するために監督当局が利用できるオプションについて概説し、内部モデルがもたらす利点を詳しく見ている。我々は、保険契約者にとって最適な社会的及び規制上の成果を達成する最善の方法は、保険会社が、標準的アプローチが会社のビジネスやリスクプロファイルに不適切だと考える場合には、監督当局の承認を受けて、完全又は部分内部モデルを使用することを認める規制制度を通じてである、と主張する。

CRO Forum は、内部モデルを使用することについて、以下の 6 つの利点を指摘している。

- ① リスクプロファイルのより正確なピクチャーを提供する。
- ② ビジネスをよりよく管理し、リスク管理を改善するインセンティブを提供する。
- ③ 商品開発と価格設定を改善させる。
- ④ 保険監督と協力と透明性を向上させる。
- ⑤ 監督当局が、脆弱な会社実績を見つけ出し、タイムリーに介入し、結果として破綻の可能性やコストを軽減することができる。
- ⑥ リスク軽減手法が適切に認識されることを可能にする。

また、内部モデルの使用が認められなければ、

- ⑦ リスクが隠されたままになるかもしれず、
- ⑧ プロシクリカルな行動を奨励することになり、
- ⑨ 新しいリスクが適切に反映され、発見されるのを妨げ、リスク評価を継続的に向上するモチベーションが無くなってしまう。

と述べている。例えば、⑧については、以下のように述べている。

「もし全ての保険会社が金融市場の状況に関する特定の前提に基づいて較正される同じ標準モデルを適用するとした場合、市場が特定の方向に動いた場合、全ての保険会社に対する影響が同様のものになる。類似の市場行動が金融市場のストレスの影響をさらに増幅させる。内部モデルはシステムミックリスクを軽減させると考えている。」

内部モデルの使用の問題は、欧州と米国との間で対立している大きな課題の 1 つであり、今後の



IAIS での対応が大変注目されるテーマとなっている。

ICS Version2.0 において、内部モデルが認められるのか否かについては、現段階では不透明な状況にあると思われるが、仮に内部モデルが認められる場合でも、銀行のバーゼル規制における資本フローと同様に、フローを設定する等の手段が検討されていくことになる模様である。

## 6—まとめ

今回のレポートでは、ICS Version1.0 について、その全体の概要と具体的な内容については保険負債評価に使用する割引率に焦点を絞って報告した。

ICS は IAIGs のための資本基準であり、IAIGs には、日本の大手の保険会社も指定されていくことが想定されている。さらには、日本における経済価値ベースのソルベンシー規制の検討においては、IAIS における ICS を見据えた形でのフィールドテストも行われてきている。

ICS の制定については、欧州と米国、さらには日本を含めた世界各国の意見を踏まえて検討が進められており、着実に進展してきている状況にはあるが、引き続き各種の課題を抱えており、当初のスケジュール通りには必ずしも進んでいないようである。

いずれにしても、ICS については、監督当局や大手の保険会社にとどまらずに、全ての保険会社等の関係者が、その動向を注意深く見守っていることから、その制定を巡る動きについては、今後も引き続き注視し、適宜フォローしていくこととしたい。

以 上